

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 相生市

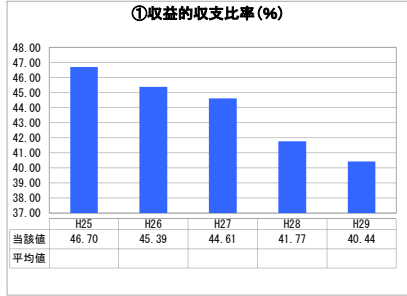
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	12.59	99.51	2,869

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,107	90.40	333.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,772	1.37	2,753.28

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



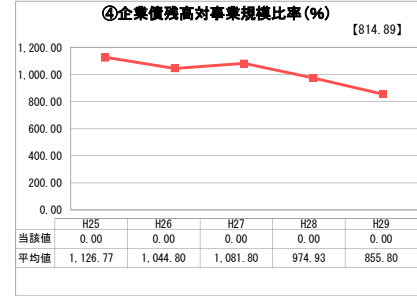
「単年度の収支」



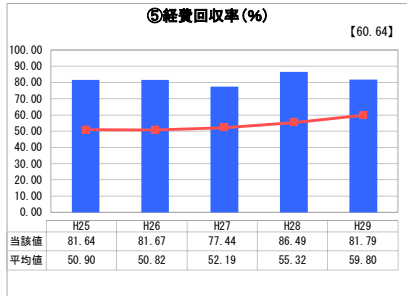
「累積欠損」



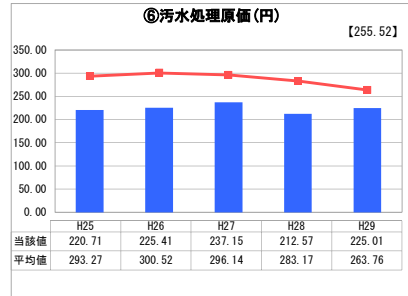
「支払能力」



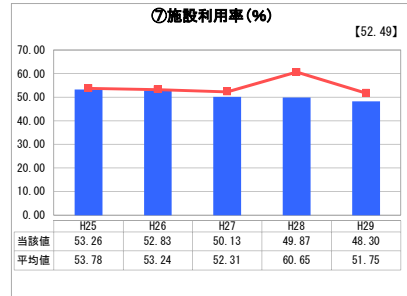
「債務残高」



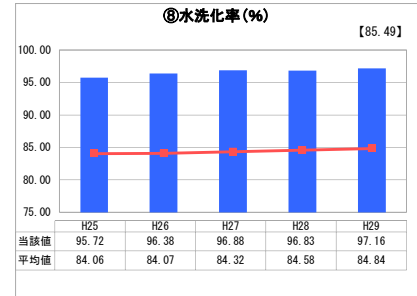
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

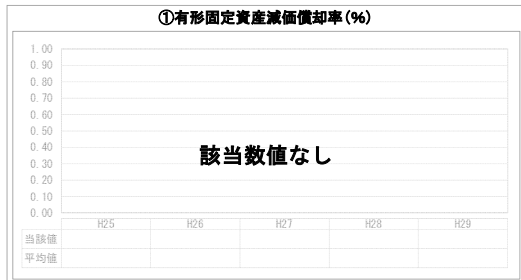


「施設の効率性」

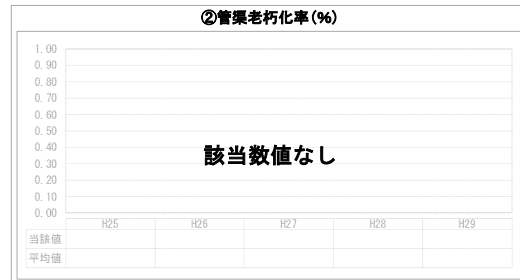


「使用料対象の捕捉」

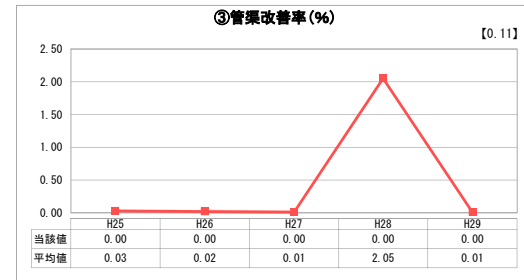
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

水洗化率が96%程度と普及がほぼ進んだ状況にあるが、人口減少や節水傾向に加え、処理場が7か所に分散したことで整備に係る企業債償還の費用が大きい。このため、現状の使用料収入規模では経費をカバーしきれず、収益的収支が低くなっている。経費回収率や汚水処理原価は類似団体よりも状況はよく、施設利用率も平均程度であることから施設や経営の効率性が類似団体より著しく悪い状況ではないものの、経費すべてを賄える状況ではなく、一般会計からの繰り入れによる支援が必要な状況が続いている。

2. 老朽化の状況について

管渠については耐用年数から鑑みて、現状の経過年数では直ちに老朽化対策に取り組む状況ではないため、適正な維持管理業務を継続することで良好な状況を維持することとなる。処理場に関しては、経過年数から機器類の老朽化が懸念される状況もあり、国庫補助を活用した機能強化事業を実施し、機能診断に基づいた設備の延命化なども組み合わせ、コストの平準化にも取り組んでいる。

全体総括

水洗化が概ね普及していることから、今後の大幅な利用増は見込めない中、将来の更新費用の確保や維持管理経費の削減と、汚水処理事業全体の効率性の向上を図る面から、公共下水道事業への統合や使用料体系のありかたといった経営改善の取り組みを「経営戦略」の策定を通じて続けていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。